

大使館情報

2023年9月

【目次】

1. ブラジル・マクロ経済情勢

- (1) 経済情勢
- (2) 経済政策等
- (3) 金融政策
- (4) 為替市場
- (5) 株式市場

2. ブラジル政治情勢（8月の出来事）

【内政】

- (1) ザニン連邦最高裁判所（STF）判事の就任式
- (2) ルーラ政権支持率
- (3) 新たな財政枠組（arcabouço fiscal）に関する補足法の可決

【外交】

- (1) 第4回アマゾン条約機構首脳（ACTO）会議
- (2) 伯米首脳電話会談
- (3) 第15回BRICS首脳会合
- (4) 伯アンゴラ首脳会談（ルーラ大統領のアンゴラ訪問）
- (5) 第14回ポルトガル語圏諸国共同体（GPLP）首脳会合
- (6) 大村愛知県知事の訪伯
- (7) 豊田国交副大臣の訪伯

3. トピックス

- (1) 令和5年度在外公館長表彰授与式（第1回）の開催（8月4日）
- (2) 「ジャングル祭り」の開催（8月11～13日）
- (3) 林大使のリオデジャネイロ州訪問（8月14～15日）

4. 大使館からのお知らせ

- (1) 在伯公館 SNS リンク一覧
- (2) 外務省 海外安全ホームページ
- (3) ブラジル渡航情報

1. ブラジル・マクロ経済情勢

(1) 経済情勢（8月発表の経済指標）※GDPは9月発表。

- (ア) 2023年第2四半期（4～6月期）の実質GDP成長率は前期比+0.9%（8四半期連続のプラス成長）、前年比+3.4%（10四半期連続のプラス成長）となった。
- (イ) 6月の鉱工業生産は前月比+0.1%、前年同月比+0.3%となった。
- (ウ) 6月の小売売上高は前月比0.0%、前年同月比+1.3%となった。
- (エ) 7月の拡大消費者物価指数（IPCA）は前月比+0.12%となった（前月：▲0.08%）。直近12か月累計は+3.99%となり、前月（同+3.16%）となった。
- (オ) 失業率（5～7月）は7.9%となり、3か月前（2～4月）の移動平均8.5%から0.6%ポイント低下。また前年同期（2022年5月～7月）の9.1%から1.2%ポイント低下した。
- (カ) 伯中央銀行が週次で発表しているエコノミスト等への調査（Focus調査）について、8月25日時点で、GDP成長率予測については、2023年は+2.31%（前週から0.02%ポイント上昇）で、2024年は+1.33%（前週から変わらず）となった。インフレ率については、2023年は4.90%（前週から変わらず）で、2024年は3.87%（前週から0.01%ポイント上昇）となった。

(2) 経済政策等

- (ア) 8月11日、政府は「新たな成長加速プログラム（Novo PAC）」を発表。官民における投資促進策で、制度的措置と投資における9本柱から構成。複数年計画で、事業規模は約1.7兆リアルで官民各部門からの負担や融資から賄う。
- (イ) 8月22日、議会は新たな財政枠組に係る補足法を承認（31日公布）。歳入の増加率やプライマリーバランス目標達成の有無を考慮して、歳出の増加率を算出する等が規定。
- (ウ) 8月31日、政府は2024年予算案を議会へ提出。歳出総額は5.54兆リアルで、そのうち政策的経費は2.69兆リアル。税収等を2.7兆リアルと見込んでおり、同年におけるプライマリーバランスの均衡を想定している。

(3) 金融政策

8月1日及び2日に開催された伯中央銀行金融政策委員会（Copom）において、政策金利であるSelic金利を0.50%引き下げて13.25%とすることが決定された。次回会合は9月19日及び20日に開催予定。

(4) 為替市場（レートは伯中銀の公表値から算出）

- (ア) 8月の為替市場は4.77～4.98リアル/ドルで推移。
- (イ) 月の前半は4.77～4.98リアル/ドルで推移。伯の物価や政策金利見通しの他、中国経済の動向等を材料に概ね下落傾向で推移した。
- (ウ) 月の後半は4.87～4.98リアル/ドルで推移。内外の金融政策の見通しを巡る動向

や、伯の財政を巡る動向等を材料に上下し、概ね上昇傾向で推移した。

(5) 株式市場

(ア) 8月の株式市場は114,429~121,248ポイントで推移。

(イ) 月の前半は116,171~121,248ポイントで推移。中国経済や資源価格の動向等を材料に下落傾向で推移した。

(ウ) 月の後半は114,429~118,404ポイントで推移。中国経済や資源価格の動向や、伯の財政を巡る動向等を材料に上下し、概ね上昇傾向で推移した。

2. ブラジル政治情勢（8月の出来事）

【内政】

(1) ザニン連邦最高裁判所（STF）判事の就任

3日、STFにおいて、クリスチアーノ・ザニン判事の就任式が開催された。同判事は、STFの年齢規定に基づき退任したレヴァンドフスキ前STF判事の後任として、ルーラ大統領に指名された。

(2) ルーラ政権支持率

10日から14日にかけて、Quaest社により2029人を対象に行われたルーラ政権支持率に関する世論調査によると、「支持」は60%（前回6月調査比4%増）、「不支持」は35%（同5%減）、「わからない/無回答」は5%（同1%増）となった。

(3) 新たな財政枠組（arcabouço fiscal）に関する補足法の可決

22日、下院において、新たな財政枠組（arcabouço fiscal）に関する補足法（Lei Complementar n° 200/2023）が賛成379票、反対64票で再可決され、31日官報にて公布された。

【外交】

(1) 第4回アマゾン協力条約機構首脳（ACTO）会議

8日及び9日、パラ州ベレン市にて第4回アマゾン協力条約機構（ACTO）首脳会議が開催された。ACTO加盟8カ国（ボリビア、ブラジル、コロンビア、エクアドル、ガイアナ、ペルー、スリナム、ベネズエラ）より、熱帯雨林の保護に向けた包括的な対応策等に係る共同宣言（「ベレン宣言」）が採択された。ベレン宣言では、8カ国の警察組織による国際警察協力センターの設置や地域開発銀行による金融メカニズム創設等、ACTO内の様々な枠組み創設が定められた。また、ACTO加盟国にインドネシア、コンゴ民主共和国、コンゴ共和国、セントビンセント及びグレナディーン諸島を加えた12カ国の熱帯雨林を有する途上国諸国により共同声明が発表され、本年ドバイにて実施される第28回気候変動枠組条約締約国会議（COP28）に向け、熱帯雨林を有する途上国が団結し、先進国に対し気候変動資金拠出を求める立場が確認された。

(2) 伯米首脳電話会談

16日、ルーラ大統領は、バイデン大統領と電話会談を行った。ルーラ大統領は気候変動に関する議論を進展させることの重要性を強調し、第4回アマゾン条約協力機構首脳（ACTO）会議の成果を説明した。バイデン大統領は、先進国の責任と気候危機の影響に対処

する途上国を支援する必要性を認識した。

(3) 第15回 BRICS 首脳会合

22日から24日、南アフリカ共和国ヨハネスブルグ市において、第15回 BRICS 首脳会合が開催された。共同声明発表後の記者会見において、ルーラ大統領は、6カ国の新規加盟国（サウジアラビア、アルゼンチン、エジプト、アラブ首長国連邦、エチオピア及びイラン）を歓迎した上、今次会合の成果として、加盟基準及び手続きの採択、BRICS 間の参照通貨創設に向けたワーキンググループの設置、安保理を含むグローバル・ガバナンス改革にかかる決定に言及した。

(4) 伯アンゴラ首脳会談（ルーラ大統領のアンゴラ公式訪問）

25日、ルーラ大統領は、アフリカ諸国への初の公式訪問として、アンゴラ共和国を訪問し、ロウレンソ・アンゴラ大統領と会談した。会談では、食料安全保障、保健、インフラ、家族農業などの分野におけるパートナーシップの拡大について協議された。

(5) 第14回ポルトガル語圏諸国共同体（GPLP）首脳会合

27日、ルーラ大統領は、サントメ・プリンシペ民主共和国を訪問し、第14回ポルトガル語圏諸国共同体（GPLP）首脳会合に参加した。同会合では、食料安全保障、保健、科学技術、テクノロジーにおける GPLP 加盟国間での協力強化等が合意された。ルーラ大統領は、特に政治プロセスや公共政策の意思決定への若者の参加について言及し、社会、経済、環境という3つの側面から持続可能性を推進していかなければならないと強調した。

(6) 大村愛知県知事の訪伯

26日から29日にかけて、大村愛知県知事がサンパウロ及びブラジリアを訪問した。ブラジリアでは、ルイス・ニシモリ連邦下院議員、キン・カタギリ連邦下院議員、ヴィトール・リッピ連邦下院議員等と会談を実施した。

（同知事のブラジル訪問の詳細は[こちらの](#)リンクより愛知県の報道発表をご覧ください）

(7) 豊田国交副大臣の訪伯

8月29日から9月1日にかけて、豊田国交副大臣がリオデジャネイロ及びブラジリアを訪問した。ブラジリアでは、日本大使公邸において、両国間における短期滞在査証免除を祝う訪日・訪伯観光促進イベントが開催され、セルソ・サビーノ観光大臣、マルセロ・フレイショ観光公社総裁、キン・カタギリ連邦下院議員等が参加した。

（同副大臣のブラジル訪問の詳細は[こちらの](#)リンクより国土交通省の報道発表をご覧ください）

3. トピックス

(1) 令和5年度在外公館長表彰授与式（第1回）の開催（8月4日）

大使公邸において、日本とブラジルの相互理解や友好親善に寄与された、クララ・セツコ・アンドウ氏（ブラジリア元国費留学生同窓会 副会長）及びグスタヴォ・ペレイラ・ジ・メネゼス氏（連邦区都市清掃局 都市・インフラ計画アナリスト・環境衛生エンジニア）に対し、林大使が、在外公館長表彰を行った。

<功績概要>

クララ・セツコ・アンドウ氏 — 2001年以降現在まで20年以上ブラジリア元国費留学生同窓会の幹部を務め、当国における知日派・親日派の中核である元国費留学生、元 JICA 研

修生のネットワーク構築・強化のために尽力されています。

グスタヴォ・ペレイラ・ジ・メネゼス氏 — 連邦区都市清掃局による、連邦区の小中学校でのリサイクルや廃棄物の分別等を普及・実践する環境教育プロジェクトに取り組む中で、自身が JICA の研修で得た経験を活かし、日本の廃棄物管理に係る知見・ノウハウの普及や対日イメージの向上に大きく貢献されています。



会場の様子



クララ・セツコ・アンドウ氏



グスタヴォ・ペレイラ・ジ・メネゼス氏

(2) 「ジャングル祭り」の開催 (8月11～13日)

8月11日～13日まで、西部アマゾン日伯協会主催による「第3回ジャングル祭り」が州立バスコ・バスケス・コンベンションセンターで開催された。このイベントは北伯地域最大の日本文化紹介イベントであり、今年は3日間で3万5千人もの市民が来場した。在マナウス総領事館もブースを出展して日本人形等の展示や日本紹介ビデオの上映を行った。開催期間中は当地やサンパウロ、パラナ、ブラジリアなどのアーティストが歌謡や和太鼓などの公演を行った他、ミス日系コンテスト、コスプレ大会やアニソンドダンス大会、書道、生け花、折紙、漫画、武道などの各ワークショップが開催された。さらに国際交流基金がアマゾンテーマにしたバーチャルリアリティ「SKY BRIDGE」を展開した他、マナウスフリーゾーン進出日本企業もブースを出展し、各商品の紹介を行った。



開会式で祝辞を述べる荻野総領事



多くの市民で賑わう会場



地元太鼓グループの演奏



ミス日系コンテスト入賞者

(3) 林大使のリオデジャネイロ州訪問 (8月14~15日)

8月14~15日の間、林大使はリオデジャネイロ州を訪問した。

14日午後にはTVグローボ社マルセロ・リンス記者のインタビューに応じ、日本とブラジル間の短期滞在査証の免除措置、日伯の二国間関係等について述べた(インタビューの様子は[こちら](#)をご覧ください。ポルトガル語のみ)。

また、同日夜には、ブラジル日本人移住115周年を記念し、ニテロイ市に寄港した海上自衛隊練習艦「かしま」の艦上において、今野練習艦隊司令官と共催で、レセプションを実施した。

15日午前、林大使は、リオデジャネイロ州軍警察を訪問し、ルイス・エンリケ・マリーニョ・ピレス/リオ州軍警局長との間で、ITを利用した治安対策等について意見交換を実施した。その後、リオデジャネイロ州議会を訪問し、チア・ジュー同州議会第二副議長との間で、観光、女性のエンパワメント等における日伯協力について意見交換を行い、また、リオデジャネイロ州の公式日程として制定された「日本人移住者感謝の日」に関し、州議会の支援に

感謝の意を表した。

その後、在リオデジャネイロ日本総領事館広報文化センターにおいて、オ・グローボ紙アナ・ギマランエス記者より、日本文化発信等にかかる本使へのインタビューが行われた（記事は[こちら](#)をご覧ください。ポルトガル語のみ）

15日午後は、アロイジオ・メルカダント伯国立経済社会開発銀行（BNDES）総裁との間で、伯日間の経済・技術協力について、協議を行った。また、リオデジャネイロ日伯文化協会を訪問し、同協会を視察すると共に、ソウハク・バストス同協会会長と、リオデジャネイロ州における日本文化普及に関し、懇談を行った。



TV グローボ社（マルセロ・リンス氏）による取材



自衛隊練習艦隊の歓迎レセプション



ルイス・エンリケ・マリーニョ・ピレス/
リオ州軍警局長との意見交換



チア・ジュー/リオデジャネイロ州議会副議長
との意見交換



アロイジオ・メルカダント伯国立経済社会
開発銀行（BNDES）総裁との意見交換



リオデジャネイロ日伯文化協会 (ICBJ) 訪問

4. 大使館からのお知らせ

(1) 在伯公館 SNS リンク一覧

在ブラジル大使館をはじめ各総領事館及び領事事務所では、SNS にて文化イベントを含め最新情報等を随時更新しています（以下リンク先をご参照ください）。

在ブラジル大使館：[facebook](#) [instagram](#) [YouTube](#)

在ベレン領事事務所：[facebook](#)

在マナウス総領事館：[facebook](#)

在レシフェ総領事館：[facebook](#) [instagram](#)

在リオデジャネイロ総領事館：[facebook](#) [instagram](#) [YouTube](#)

在サンパウロ総領事館：[facebook](#) [YouTube](#)

在クリチバ総領事館：[facebook](#) [Instagram](#) [YouTube](#)

(2) 外務省 海外安全ホームページ

(ア) 各国の危険情報や安全対策等海外赴任、出張及び旅行をする際の留意点を公開しています。

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

(イ) 各公館で四半期毎に「海外安全対策情報」を公開しています。在伯大使館の情報（令和5年度第1四半期）は以下のリンク先から。

https://www.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/kaigai_anzen_taisaku.html

(ウ) 各在伯公館が「在外邦人向け安全の手引き ブラジル」を作成し公開しています。

https://www.anzen.mofa.go.jp/manual/brazil_manual.html

(3) ブラジル渡航情報

(ア) 危険情報

最新更新日：2022年4月5日

http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_259.html

以下の地域が「レベル1：十分注意してください。」となっています。

- ・ブラジリア連邦区
- ・サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市
- ・リオデジャネイロ州大リオ圏
- ・エスピリトサント州大ビトリア圏
- ・アマゾナス州大マナウス圏
- ・ロライマ州北部
- ・パラ州大ベレン圏
- ・ペルナンブーコ州大レシフェ圏
- ・バイーア州大サルバドール圏
- ・セアラ州大フォルタレーザ圏
- ・パラナ州大クリチバ圏
- ・リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレ市

(イ) 安全対策基礎データ

最新更新日：2023年8月10日

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure_259.html

主要各州、都市毎の犯罪発生状況、防犯対策及び滞在時の留意事項等に加え
査証、出入国審査及び新型コロナウイルス関連情報や大使館、総領事館の緊急連絡先を公開しています。

(ウ) テロ・誘拐情勢

最新更新日：2023年4月11日

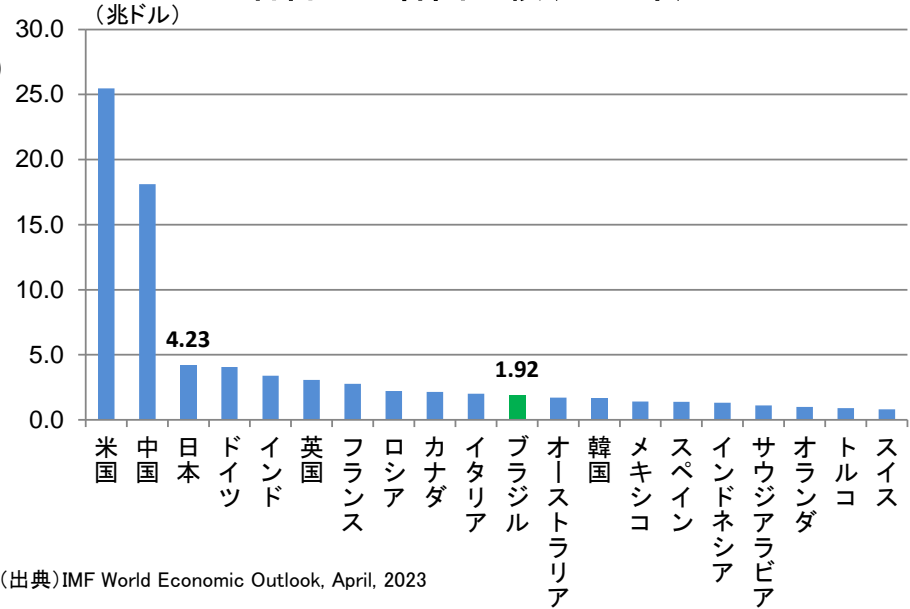
https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_259.html

ブラジル経済・二国間経済関係概観

1. 経済構造

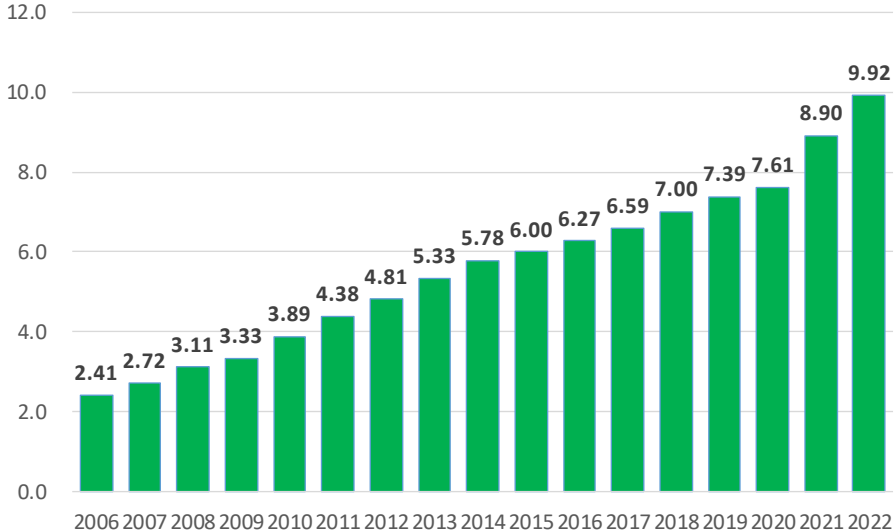
1. 人口約2億300万人、面積約851万km²(2022年国勢調査)
2. 世界第11位の経済規模(名目GDP約1.92兆ドル(2022年):日本の約45%)。一人当たりGDP(約8,995ドル(2022年見通し))は、日本の約27%。
3. 世界有数の農業・資源国であるが、産業別国内総生産(GDP)額では第三次産業(サービス業)が高いウェイトを占めている。
4. GDPを需要項目別で見ると、家計消費や総固定資本形成(投資)といった内需が成長に寄与している。

名目GDP各国比較(2022年)

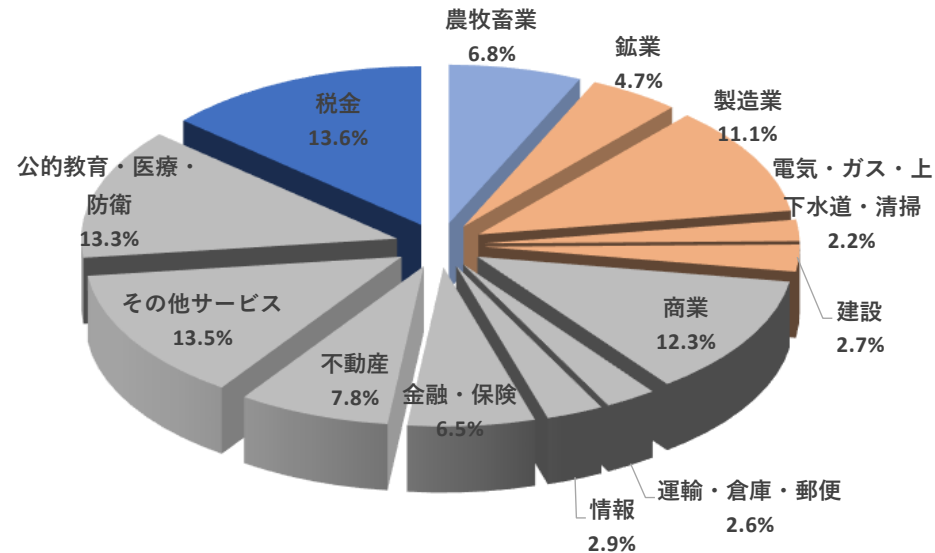


名目GDPの推移

(兆リアル)



名目GDPの産業別構成比(2022年)

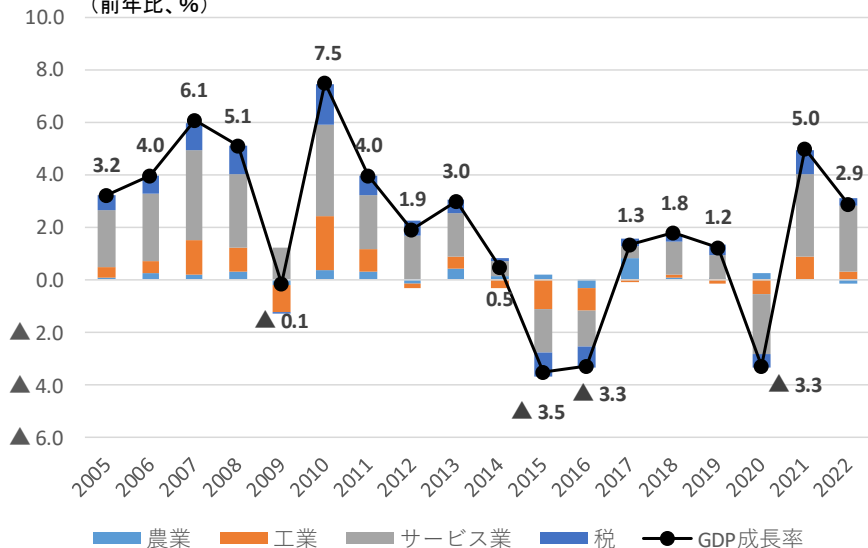


II. 経済の現状

ブラジル地理統計院(IBGE)が9月に発表した2023年第2四半期の実質GDP成長率は前期比+0.9%(8四半期連続のプラス)、前年同期比+3.4%(10四半期連続のプラス)となった。

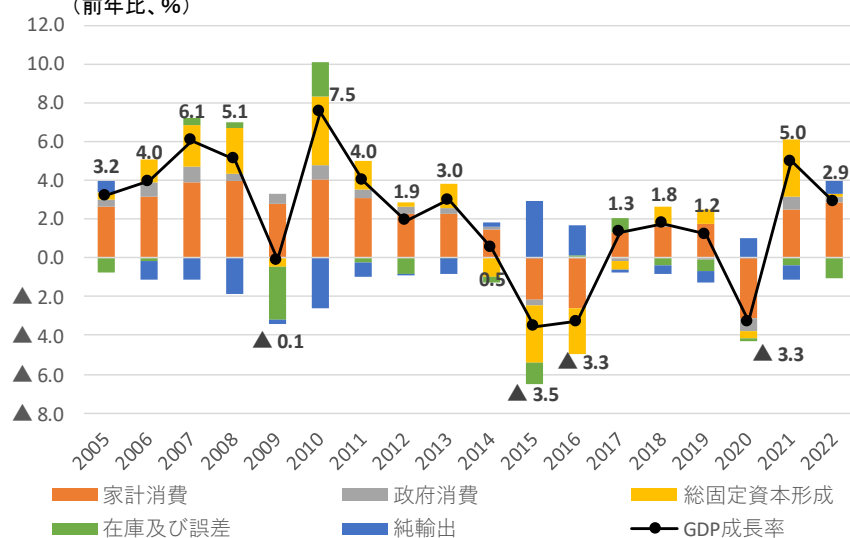
実質GDP成長率と産業別寄与度の推移(暦年)

(前年比、%)



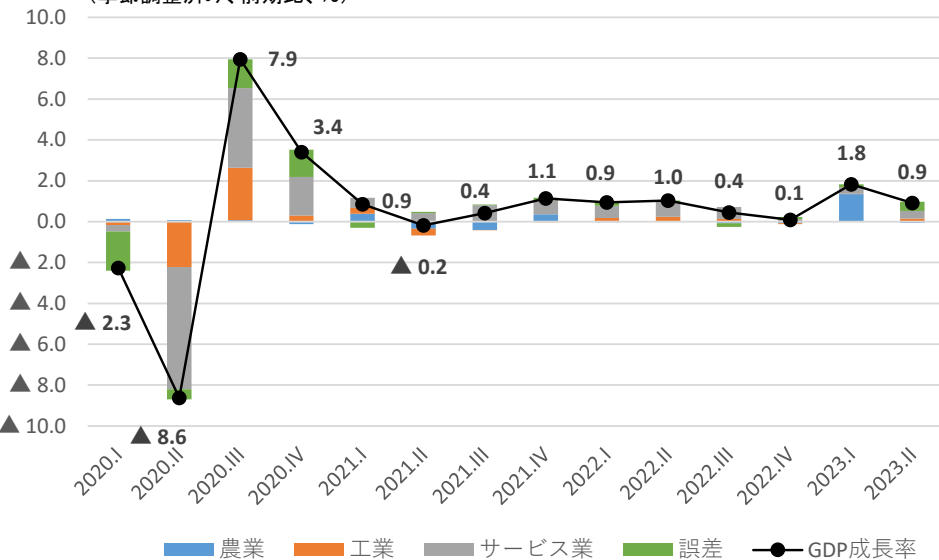
実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移(暦年)

(前年比、%)



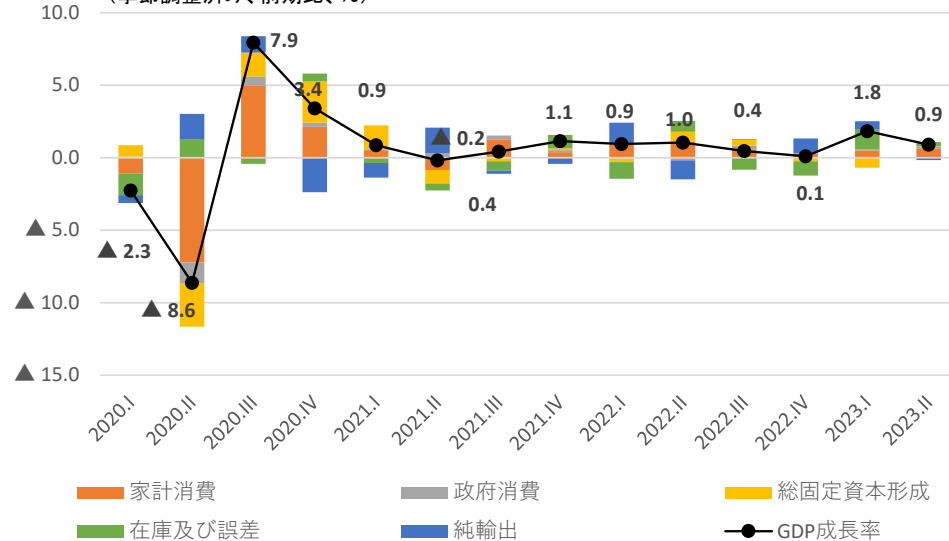
実質GDP成長率と産業別寄与度の推移(四半期)

(季節調整済み、前期比、%)



実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移(四半期)

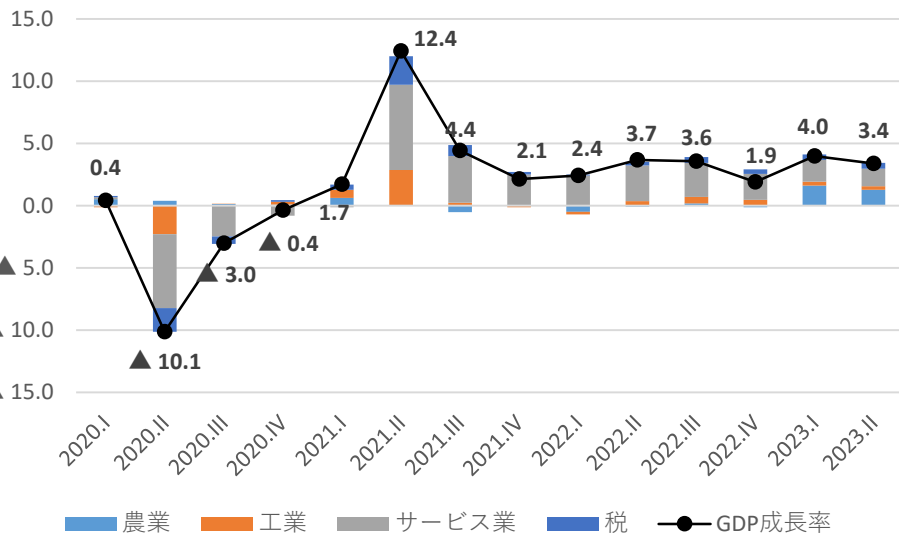
(季節調整済み、前期比、%)



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、「誤差」、「在庫及び誤差」はGDP全体から各項目を除いたもの。(出典) 伯地理統計院 (IBGE) 2

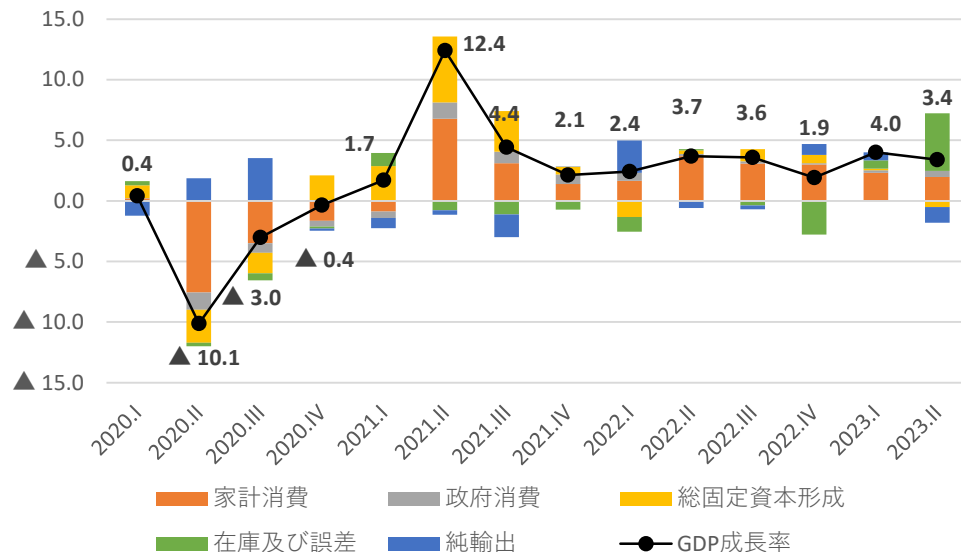
実質GDP成長率と産業別寄与度の推移(四半期)

(前年同期比、%)



実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移(四半期)

(前年同期比、%)



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、「在庫及び誤差」はGDP全体から各項目を除いたもの。(出典)伯地理統計院(IBGE)

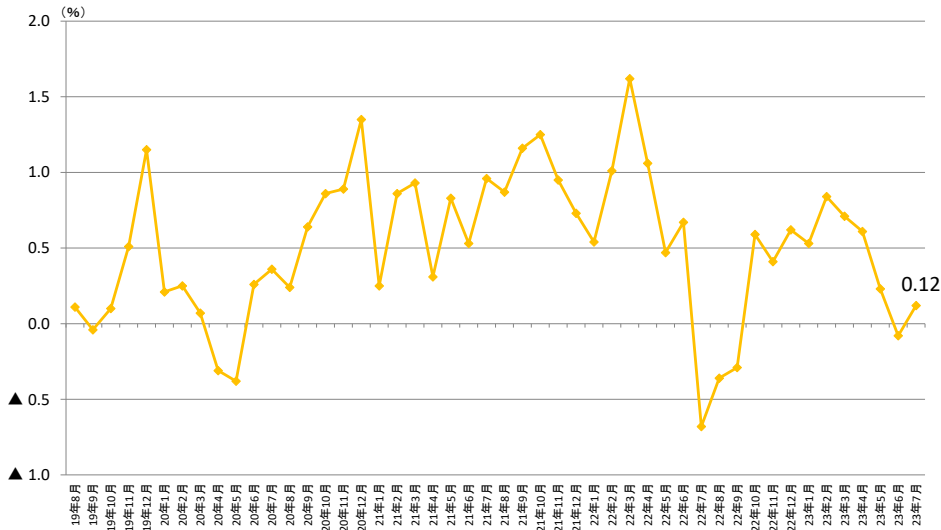
《各機関によるGDP成長率見通し》

| | 2023 | 2024 |
|--------------------------|--------|--------|
| IMF (2023年7月) | +2.1% | +1.2% |
| 伯財務省 (2023年7月) | +2.5% | +2.3% |
| 伯中銀 (2023年6月) | +2.0% | - |
| 伯中銀Focus (2023年8月25日) | +2.31% | +1.33% |

物価の動向と政策金利

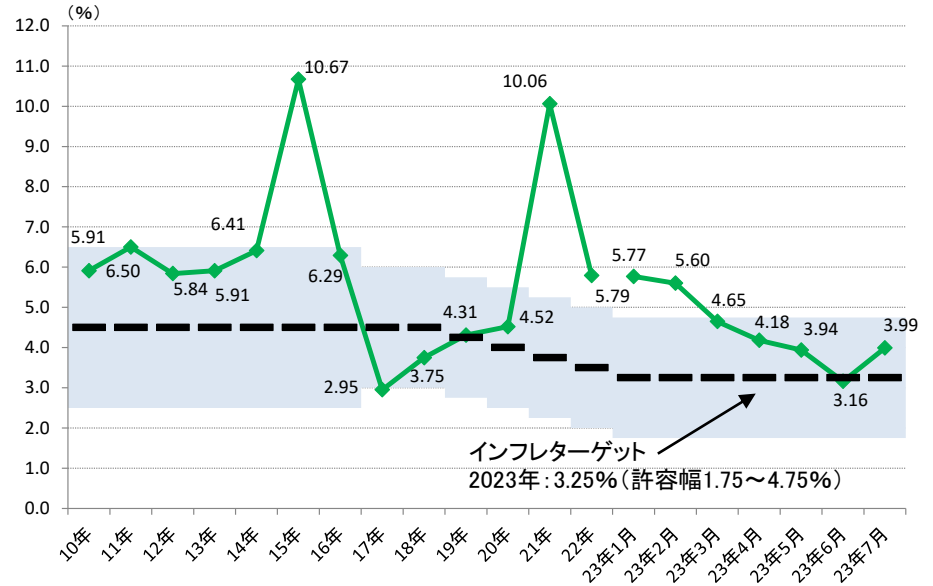
7月の拡大消費者物価指数(IPCA)は前月比+0.12%、直近12か月累計では+3.99%となった。

拡大消費者物価指数(IPCA)上昇率の推移(各月)



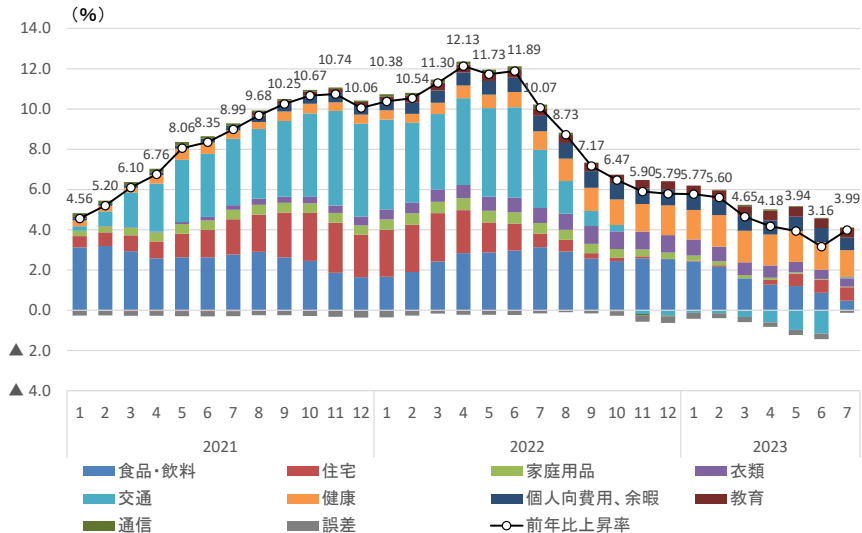
(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

拡大消費者物価指数(IPCA)上昇率の推移(12か月累計)



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

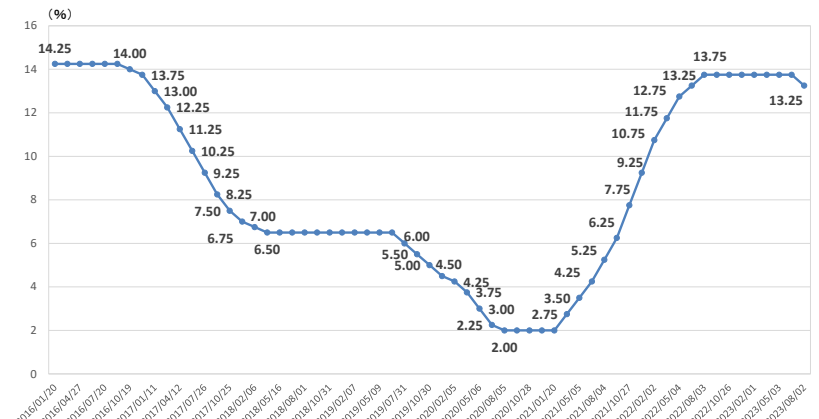
拡大消費者物価指数(IPCA)上昇率の項目別寄与度



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

政策金利の推移(2016年~)

8月1日及び2日に開催された伯中央銀行金融政策委員会(Copom)において、政策金利であるSelic金利を50bp引き下げて13.25%とすることが決定された。2022年9月会合以降、7会合連続で政策金利を据置きとしていた。次回の伯中央銀行金融政策委員会(Copom)は9月19日及び20日に開催予定。

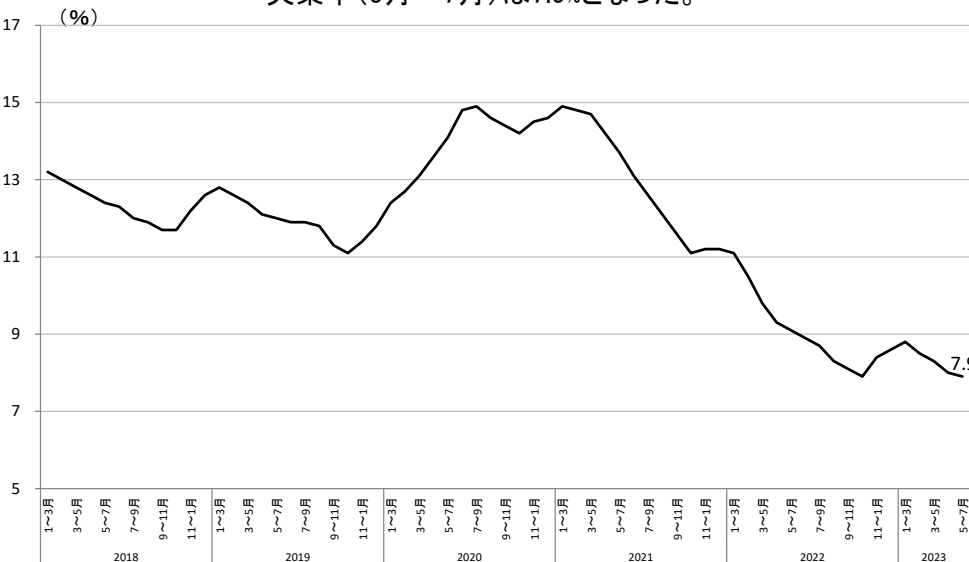


(出典) BCB 4

労働市場、消費、生産、財政収支の動向

失業率の推移(3か月移動平均)

失業率(5月～7月)は7.9%となった。



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

鉱工業生産指数の推移(月次)

鉱工業生産(6月)は前月比+0.1%、前年同月比+0.3%となった。

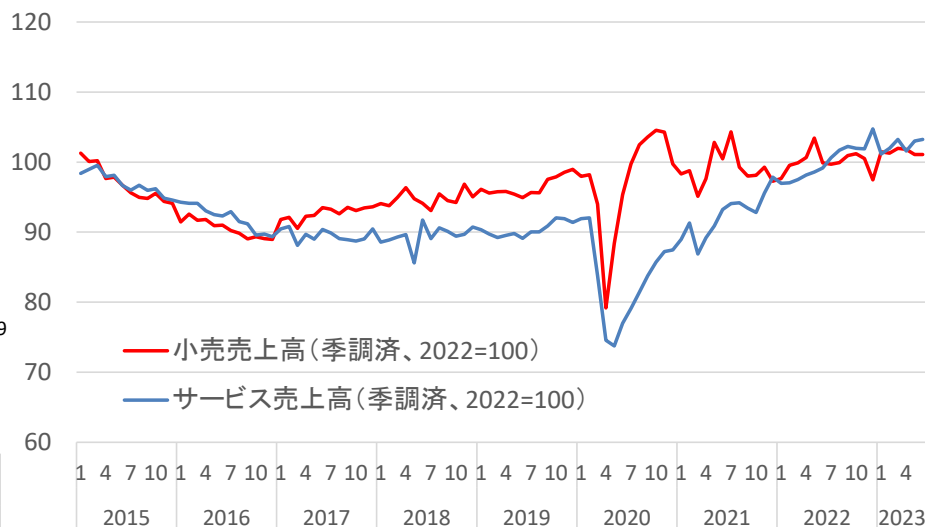
(2022年=100、季調済)



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

小売・サービス売上高指数の推移(月次)

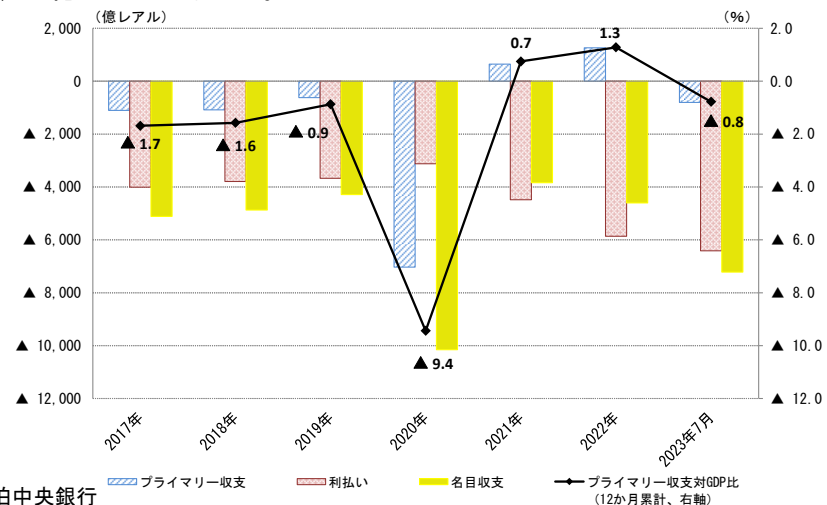
小売売上高(6月)は前月比0.0%、前年同月比▲0.3%となった。サービス売上高(6月)は前月比+0.2%、前年同月比+4.1%となった。



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

財政収支の推移(12か月累計)

公的部門(連邦政府、地方政府、公営企業)の2023年7月のプライマリー収支(税収等と政策的経費の収支)は▲805億レアルの赤字、利払い費は▲6,413億レアルで、これらを合計した名目収支(債務残高の増減分)は▲7,218億レアルとなった。



(出典) 伯中央銀行

国際収支の動向

国際収支

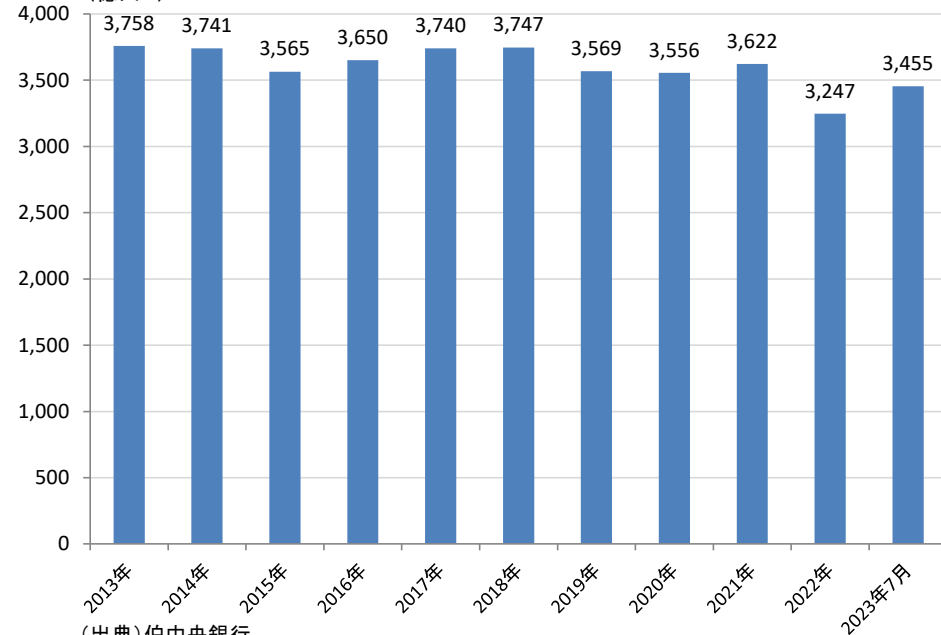
(億ドル)

| | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 7月 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|
| 経常収支 | ▲ 515 | ▲ 650 | ▲ 245 | ▲ 464 | ▲ 536 | ▲ 182 |
| 貿易収支 | 434 | 265 | 324 | 364 | 442 | 446 |
| サービス収支 | ▲ 360 | ▲ 355 | ▲ 209 | ▲ 270 | ▲ 396 | ▲ 208 |
| 第1次所得収支 | ▲ 588 | ▲ 573 | ▲ 383 | ▲ 590 | ▲ 619 | ▲ 426 |
| 第2次所得収支 | ▲ 0 | 12 | 23 | 32 | 37 | 5 |
| 資本移転収支 | 4 | 4 | 41 | 2 | 2 | 2 |
| 金融収支 | ▲ 523 | ▲ 644 | ▲ 125 | ▲ 502 | ▲ 554 | ▲ 171 |
| 直接投資 | ▲ 761 | ▲ 464 | ▲ 413 | ▲ 302 | ▲ 539 | ▲ 210 |
| 対外直接投資 | 20 | 228 | ▲ 35 | 162 | 334 | 126 |
| 対内直接投資 | 782 | 692 | 378 | 464 | 872 | 336 |
| 証券投資 | 69 | 192 | 129 | ▲ 79 | 42 | ▲ 20 |
| 金融派生商品 | 28 | 17 | 54 | ▲ 10 | ▲ 20 | ▲ 32 |
| その他投資 | 113 | ▲ 128 | 247 | ▲ 251 | 36 | ▲ 89 |

(出典) 伯中央銀行

外貨準備高

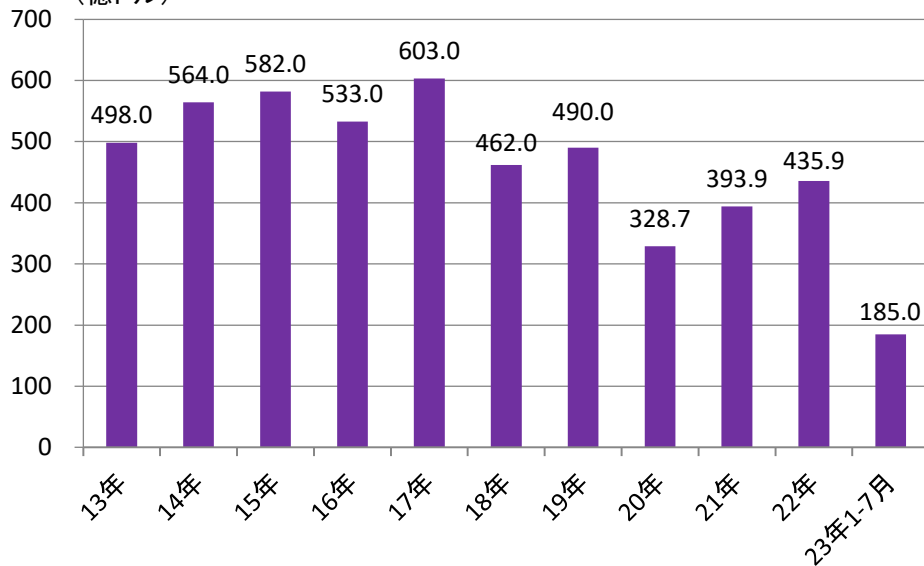
(億ドル)



(出典) 伯中央銀行

外国直接投資(資本参加分)流入額

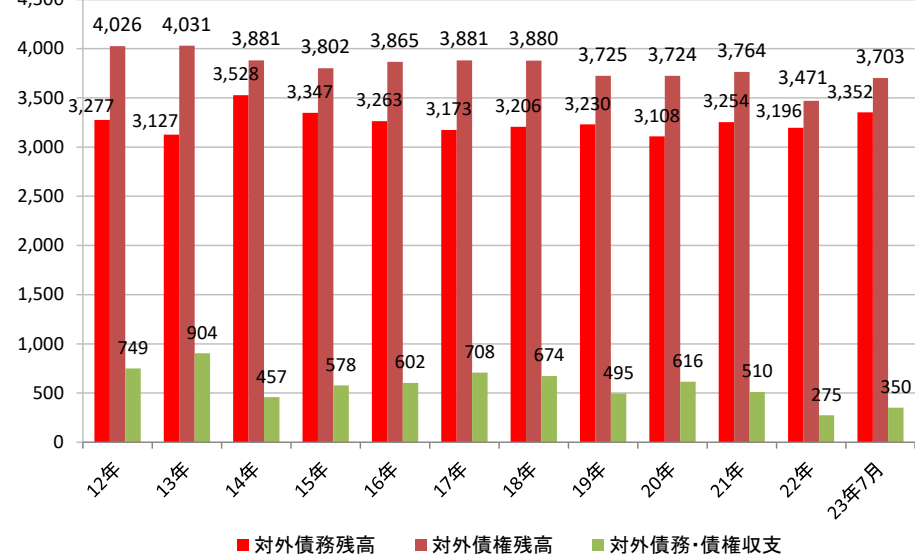
(億ドル)



(出典) 伯中央銀行 ※貸付は除く

対外債務・債権収支

(億ドル)



(出典) 伯中央銀行

■ 対外債務残高 ■ 対外債権残高 ■ 対外債務・債権収支

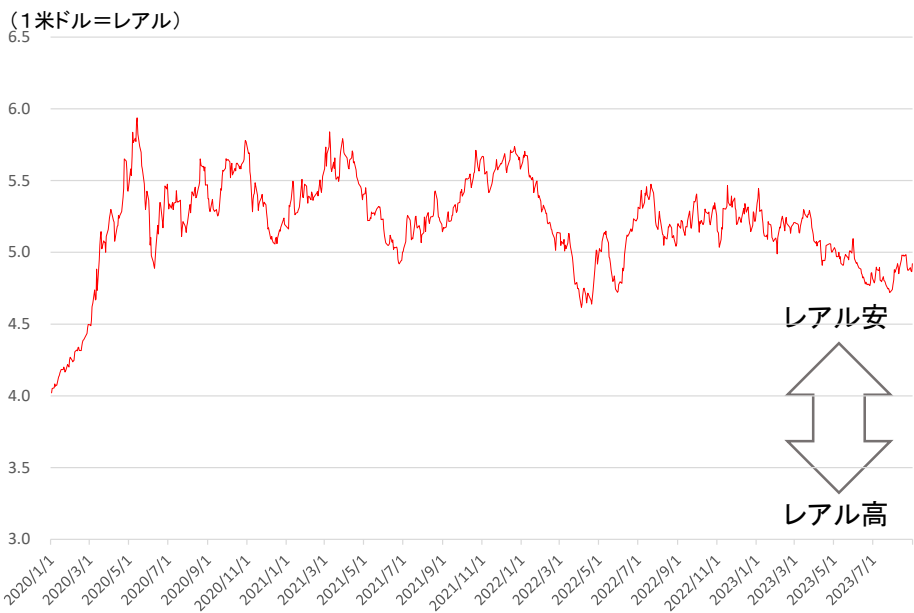
為替・株価の推移

8月の為替市場は4.77~4.98リアル/ドルで推移。

月の前半は4.77~4.98リアル/ドルで推移。伯の物価や政策金利見通しの他、中国経済の動向等を材料に概ね下落傾向で推移した。

月の後半は4.87~4.98リアル/ドルで推移。内外の金融政策の見通しを巡る動向や、伯の財政を巡る動向等を材料に上下し、概ね上昇傾向で推移した。

為替の推移(対米ドル)



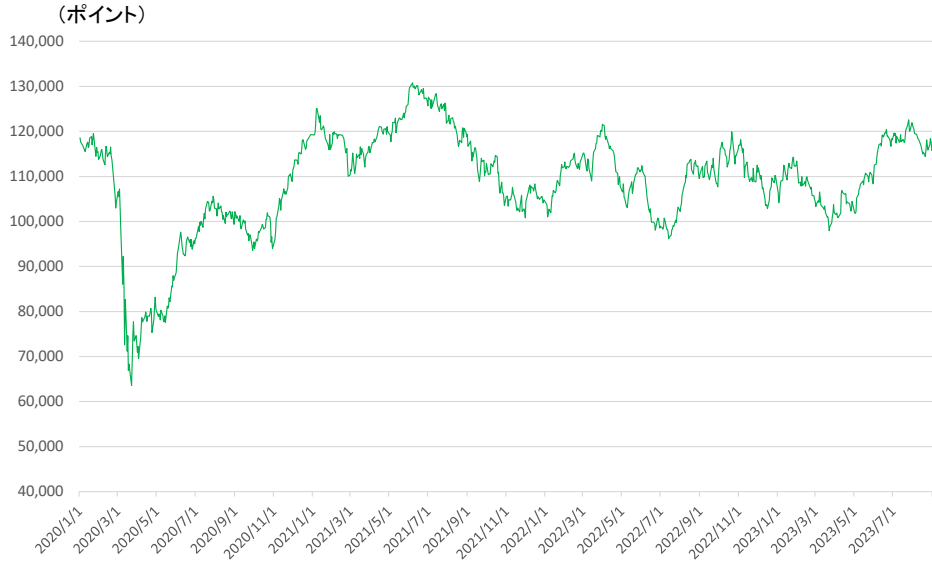
(出典) 伯中央銀行

8月の株式市場は114,429~121,248ポイントで推移。

月の前半は116,171~121,248ポイントで推移。中国経済や資源価格の動向等を材料に下落傾向で推移した。

月の後半は114,429~118,404ポイントで推移。中国経済や資源価格の動向や、伯の財政を巡る動向等を材料に上下し、概ね上昇傾向で推移した。

株価指数(Ibovespa)の推移



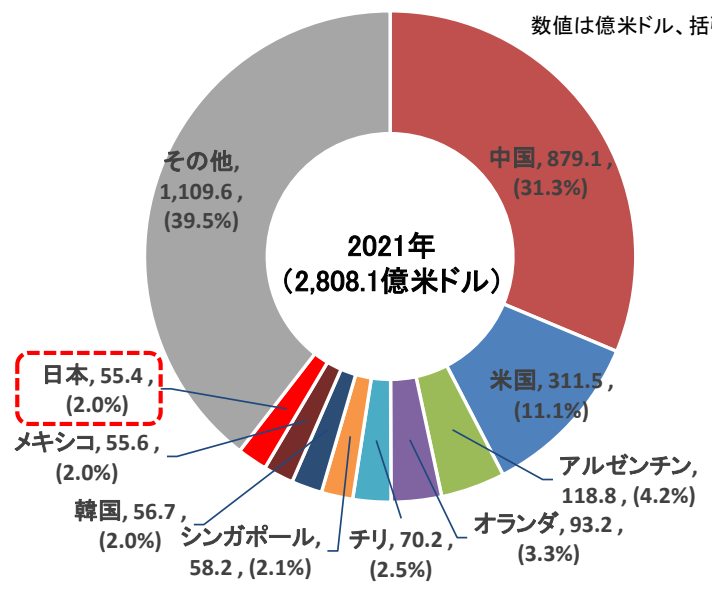
(出典) B3

III. 貿易動向

ブラジルの貿易は、輸出、輸入ともに中国、米国、アルゼンチンが上位に占めている。2022年においては、日本は貿易相手国として輸出で9位、輸入で10位となっている。

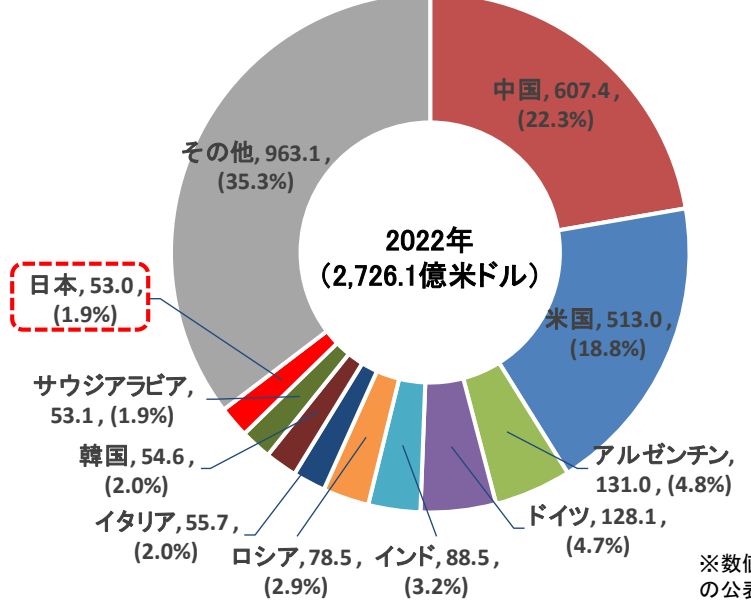
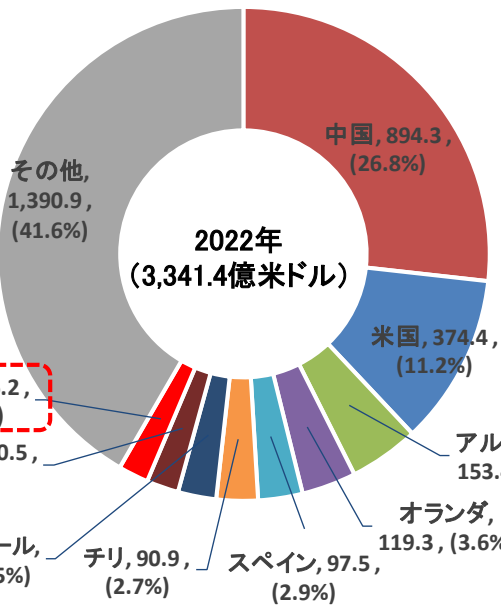
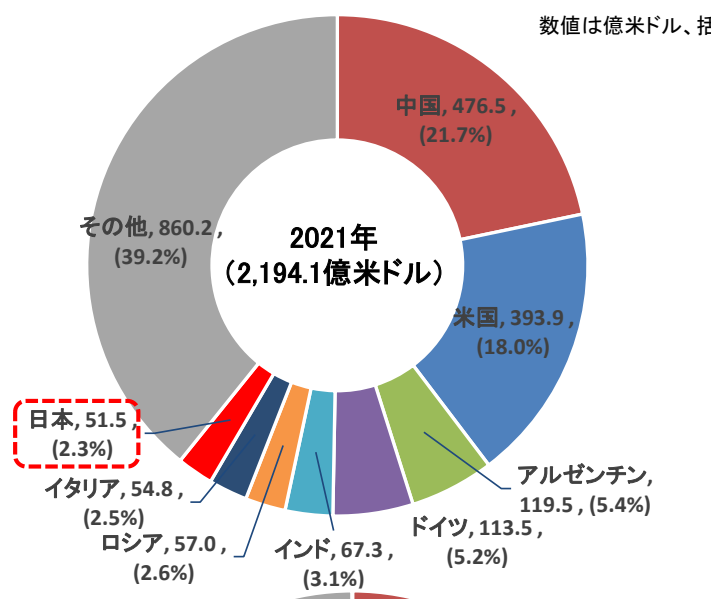
輸出額と構成比(国別)

数値は億米ドル、括弧内は構成比



輸入額と構成比(国別)

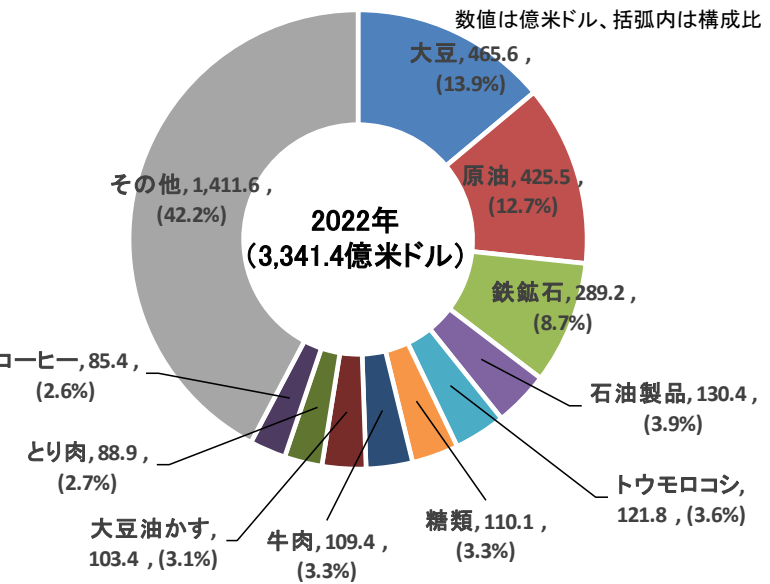
数値は億米ドル、括弧内は構成比



(出典) MDIC
※数値は2023年3月時点の公表値から算出

主要輸出品目は資源(原油、鉄鉱石等)、食品(大豆、トウモロコシ、糖類、肉類等)。主要輸入品目は石油製品、肥料、自動車部分品を中心に、電気機器など幅広い品目にわたっている。

ブラジルの主要輸出品目と主要相手国



【大豆】

| | 億米ドル | 構成比(%) |
|--------|-------|--------|
| 全体 | 465.6 | 100.0 |
| ① 中国 | 317.8 | 68.3 |
| ② スペイン | 19.4 | 4.2 |
| ③ タイ | 16.8 | 3.6 |
| ④ イラン | 13.5 | 2.9 |
| ⑤ オランダ | 11.3 | 2.4 |

【原油】

| | 億米ドル | 構成比(%) |
|---------|-------|--------|
| 全体 | 425.5 | 100.0 |
| ① 中国 | 165.3 | 38.8 |
| ② 米国 | 50.6 | 11.9 |
| ③ スペイン | 35.7 | 8.4 |
| ④ チリ | 31.3 | 7.4 |
| ⑤ ポルトガル | 25.3 | 5.9 |

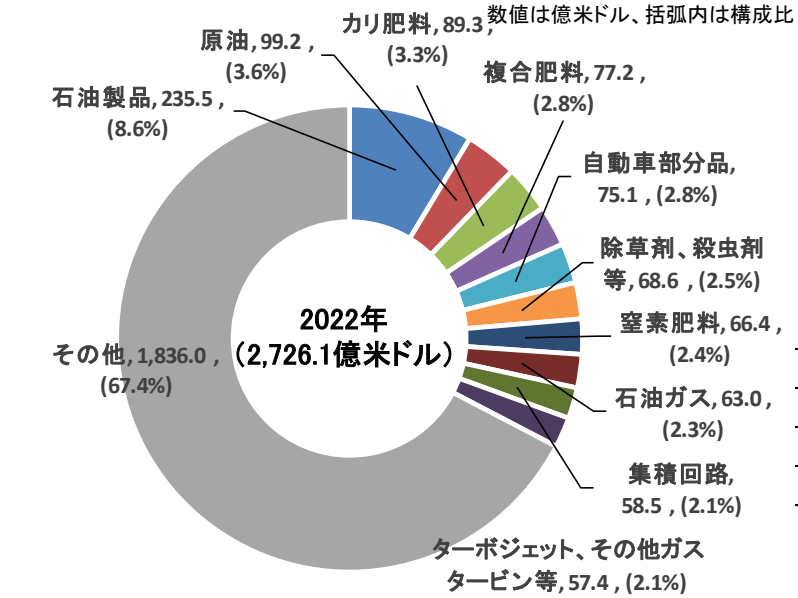
【鉄鉱石】

| | 億米ドル | 構成比(%) |
|---------|-------|--------|
| 全体 | 289.2 | 100.0 |
| ① 中国 | 181.9 | 62.9 |
| ② マレーシア | 15.2 | 5.3 |
| ③ バーレーン | 13.3 | 4.6 |
| ④ 日本 | 11.0 | 3.8 |
| ⑤ 韓国 | 8.6 | 3.0 |

【石油製品】

| | 億米ドル | 構成比(%) |
|-----------|-------|--------|
| 全体 | 130.4 | 100.0 |
| ① シンガポール | 58.6 | 44.9 |
| ② オランダ | 8.8 | 6.8 |
| ③ 米国 | 4.9 | 3.8 |
| ④ ヴァージン諸島 | 4.8 | 3.7 |
| ⑤ パナマ | 4.7 | 3.6 |

ブラジルの主要輸入品目と主要相手国



【石油製品】

| | 億米ドル | 構成比(%) |
|------|-------|--------|
| 合計 | 235.5 | 100.0 |
| 米国 | 127.9 | 54.3 |
| インド | 25.9 | 11.0 |
| UAE | 22.4 | 9.5 |
| オランダ | 11.7 | 5.0 |
| ロシア | 11.1 | 4.7 |

【原油】

| | 億米ドル | 構成比(%) |
|-----------|------|--------|
| 合計 | 99.2 | 100.0 |
| ① サウジアラビア | 32.0 | 32.3 |
| ② 米国 | 30.0 | 30.3 |
| ③ UAE | 11.9 | 12.0 |
| ④ オランダ | 5.8 | 5.9 |
| ⑤ ロシア | 5.7 | 5.7 |

【カリ肥料】

| | 億米ドル | 構成比(%) |
|---------|------|--------|
| 合計 | 90.7 | 100.0 |
| ① カナダ | 37.1 | 40.9 |
| ② ロシア | 24.3 | 26.8 |
| ③ イスラエル | 8.7 | 9.6 |
| ④ ドイツ | 8.4 | 9.3 |
| ⑤ ベラルーシ | 3.6 | 4.0 |

【複合肥料】

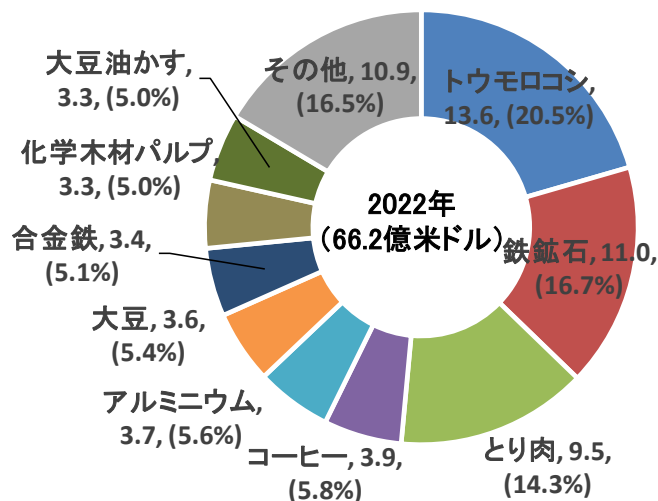
| | 億米ドル | 構成比(%) |
|-----------|------|--------|
| 合計 | 77.2 | 100.0 |
| ① ロシア | 22.4 | 29.0 |
| ② 米国 | 14.8 | 19.2 |
| ③ モロッコ | 13.3 | 17.2 |
| ④ 中国 | 8.0 | 10.3 |
| ⑤ サウジアラビア | 7.2 | 9.3 |

対日貿易

対日貿易においては、主要輸出品目は資源（鉄鉱石、アルミニウム等）や食品（トウモロコシ、肉類、コーヒー、大豆等）、主要輸入品目は自動車関連が中心となっている。

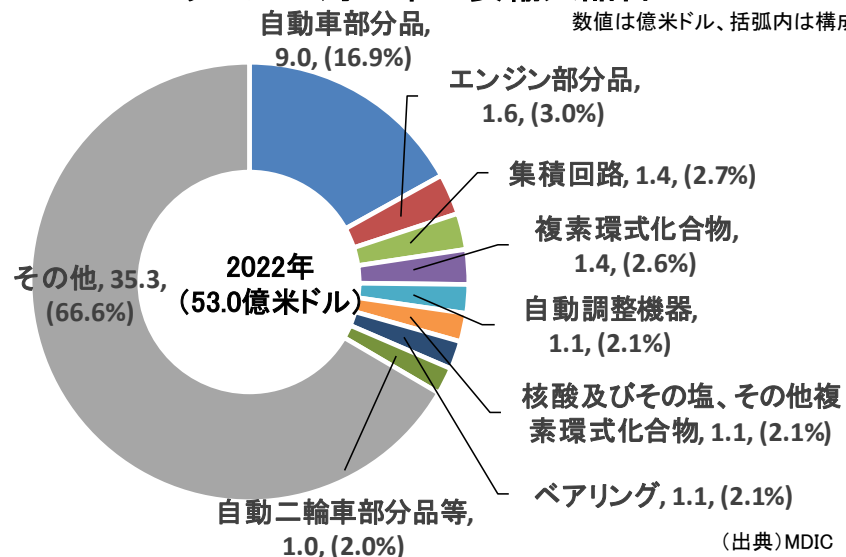
ブラジルの対日本主要輸出品目

数値は億米ドル、括弧内は構成比



ブラジルの対日本主要輸入品目

数値は億米ドル、括弧内は構成比



(出典) MDIC

※数値は2023年3月時点の公表値から算出

ブラジルの対日本主要輸出品目の日本側から見たブラジルの構成比(2022年)

| 輸出品目 | 億円 | 構成比 (%) | 輸出品目 | 億円 | 構成比 (%) | 輸出品目 | 億円 | 構成比 (%) | 輸出品目 | 億円 | 構成比 (%) |
|-----------------|---------|---------|---------------|----------|---------|---------------|---------|---------|-----------------|---------|---------|
| 【とうもろこし】 | | | 【鉄鉱石】 | | | 【とり肉】 | | | 【アルミニウム】 | | |
| 総計 | 7,643.4 | 100.0 | 総計 | 18,050.2 | 100.0 | 総計 | 2,077.8 | 100.0 | 総計 | 9,206.4 | 100.0 |
| ① アメリカ合衆国 | 4,921.7 | 64.4 | ① オーストラリア | 9,579.8 | 53.1 | ① <u>ブラジル</u> | 1,407.5 | 67.7 | ① アラブ首長国連邦 | 1,711.6 | 18.6 |
| ② <u>ブラジル</u> | 1,744.7 | 22.8 | ② <u>ブラジル</u> | 5,818.4 | 32.2 | ② タイ | 611.4 | 29.4 | ② ロシア | 1,501.2 | 16.3 |
| ③ アルゼンチン | 530.2 | 6.9 | ③ カナダ | 1,313.9 | 7.3 | ③ アメリカ合衆国 | 33.6 | 1.6 | ③ オーストラリア | 1,388.7 | 15.1 |
| ④ 南アフリカ共和国 | 379.6 | 5.0 | ④ 南アフリカ共和国 | 611.0 | 3.4 | ④ ハンガリー | 6.2 | 0.3 | ④ ニュージーランド | 681.0 | 7.4 |
| ⑤ ウクライナ | 41.7 | 0.5 | ⑤ アメリカ合衆国 | 273.4 | 1.5 | ⑤ フランス | 6.0 | 0.3 | ⑤ サウジアラビア | 586.1 | 6.4 |
| 【コーヒー】 | | | 【大豆】 | | | 【合金鉄】 | | | ⑥ 中華人民共和国 | 503.6 | 5.5 |
| 総計 | 2,333.3 | 100.0 | 総計 | 3,391.0 | 100.0 | 総計 | 4986.1 | 100.0 | ⑦ <u>ブラジル</u> | 476.6 | 5.2 |
| ① <u>ブラジル</u> | 572.6 | 24.5 | ① アメリカ合衆国 | 2,420.1 | 71.4 | ① カザフスタン | 956.3 | 19.2 | | | |
| ② コロンビア | 396.4 | 17.0 | ② <u>ブラジル</u> | 570.1 | 16.8 | ② 中華人民共和国 | 557.3 | 11.2 | | | |
| ③ ベトナム | 306.6 | 13.1 | ③ カナダ | 364.6 | 10.8 | ③ ロシア | 533.6 | 10.7 | | | |
| ④ エチオピア | 179.9 | 7.7 | ④ 中華人民共和国 | 33.4 | 1.0 | ④ <u>ブラジル</u> | 500.8 | 10.0 | | | |
| ⑤ グアテマラ | 175.8 | 7.5 | ⑤ ロシア | 2.7 | 0.1 | ⑤ マレーシア | 497.0 | 10.0 | | | |

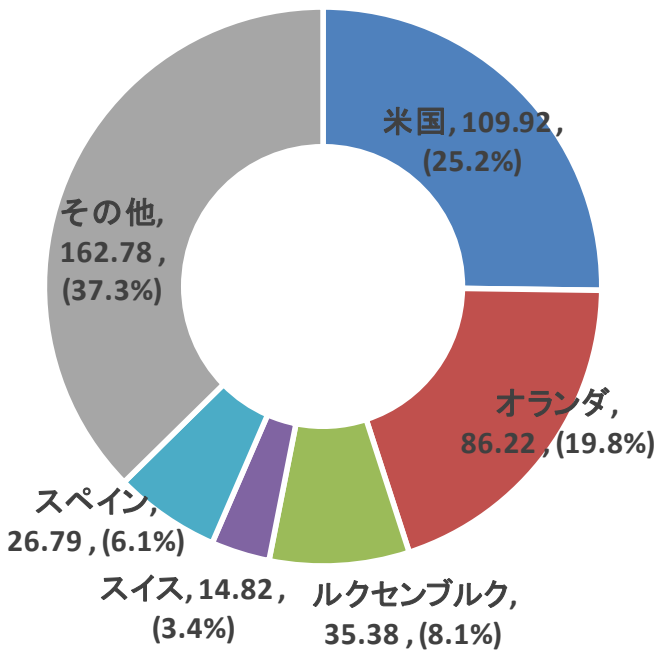
※日伯ともにHS番号4桁の数値。鉄鉱石2601、とうもろこし1005、とり肉0207、コーヒー0901、アルミニウム7601、合金鉄(フェオアロイ)7202、大豆1201

(出典)財務省(日本)
※数値は2023年3月末時点の公表値から算出

IV. 日伯投資

対ブラジル直接投資(資本参加分)の国別構成比
総額435.9億ドル(2022年)

数値は億米ドル、括弧内は構成比



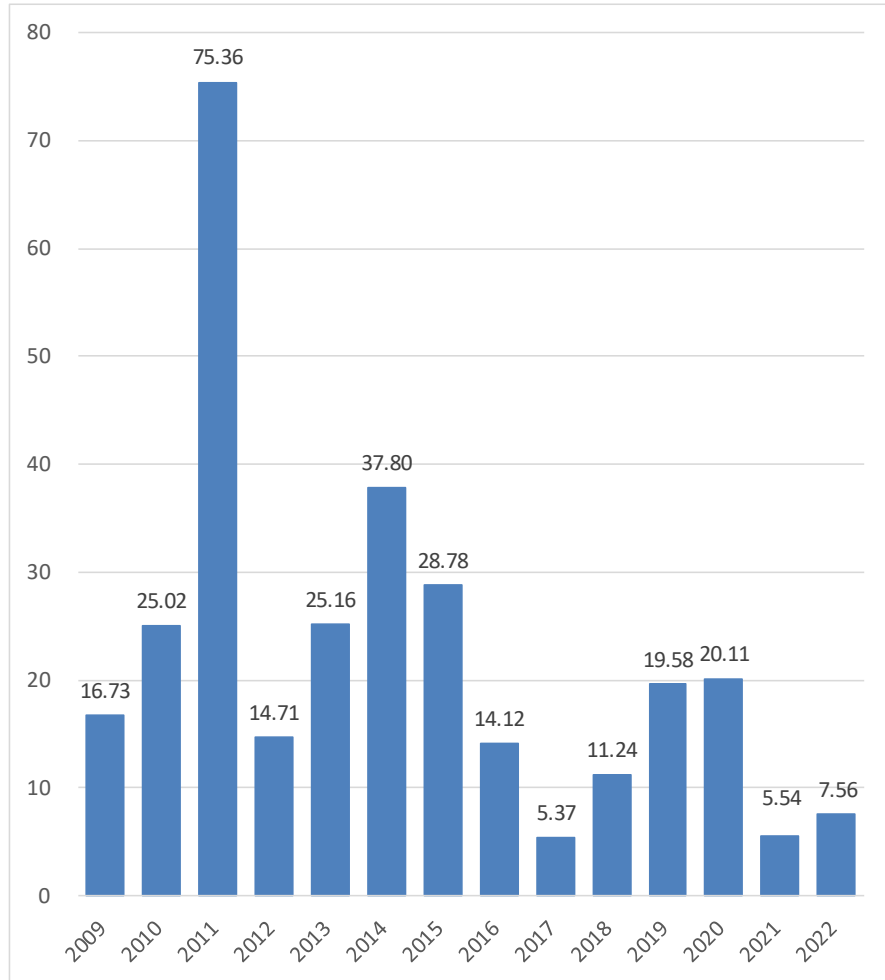
(出典) 伯中央銀行

2022年の日本の直接投資額(資本参加分)は7.56億ドルで構成比は1.73%と、10番目の規模。

※ 中国:0.35億ドル(0.08%)。但し、第三国経由の投資額が含まれていないため、実際よりも少ない数値となっている。

日本の対ブラジル直接投資(資本参加分)の推移

(億ドル)



(出典) 伯中央銀行